きずな

財団法人　岐阜県文化財保護センターだより
http://www.maibun.gifu-net.jp

三田洞本部
〒502-0003　岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
Tel.058-237-8550㈹　Fax.058-237-8551
e-mail.gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨出張所
〒509-4122　岐阜県吉城郡国府町名張字峠1425-1
Tel.0577-72-4784　Fax.0577-72-4690
e-mail.hida@maibun.gifu-net.jp

丸石古窯跡群出土　人物像頭部

もくじ

表紙　巻頭グラビア …… 1
センターレポート❶　2002整理最前線「報告書はこうして作られる！」… 2・3
センターレポート❷　2002発掘最前線「発掘現場最新レポート」partⅡ … 4・5
センタートピックス❶　発掘速報展速報…… 6
センターだより　現地説明会・防災訓練・センター日誌・編集後記 … 7
センタートピックス❷　博物館展示紹介・ホームページリニューアル情報… 8

ぎふ発！

野内遺跡
竈（かまど）を掘っている様子

野内遺跡　発掘作業の様子

発掘調査・整理作業最前線

平成15年
3月1日
第36号

報告書はこうして作られる!

三田洞本部では、今年度は8遺跡の整理作業を行っています。弥生時代から近世に至るまでの人々の暮らしが残された8万㎡におよぶ柿田遺跡（可児市・御嵩町）をはじめ、大量の土器とともに縄文時代の集落跡が見つかった塚奥山遺跡（藤橋村）、中世に山茶碗がやかれていた4基の窯跡が見つかった丸石古窯跡群（土岐市）など、いずれも特色ある遺跡です。今回は、発掘調査の成果がどのように整理され報告書になっていくのか、その様子を紹介します。

←本部のみなさん

私たちが整理作業をしています

飛騨出張所のみなさん→

洗い・注記

遺跡では、多くの遺物が出土します。「洗い」は、まず、出土した遺物についている泥や土をブラシ・ハケ・筆などで、ていねいに水洗いして落としています。「注記」は、洗った遺物を乾燥させたあとに、いつ、どこから出てきたか分かるよう、1点ごとに手作業や機械作業で数字や記号を書き込んでいきます。

鵜飼調査員

接合・復元

「接合」は、遺物全体の形をイメージをしながら、そしてバラバラになった遺物の破片の色や厚みなどをよく観察し、つながる部分を探していきます。一部のずれが全体として大きなずれにつながっていくので、接着剤の量にも注意を払いながらていねいに仕上げていきます。

「復元」は、土器の破片が足りなかったところに、キューテックスという材料を入れて、もとの形に近づける作業です。

どちらも根気のいる作業です。

竹本調査員

拓　本

表面に細かい模様のある縄文土器などは、「拓本」によって模様を写し取ります。まず土器の表面に水をつけて和紙を密着させます。その上を墨を付けたタンポという道具で軽く叩いていくと、模様が浮かび上がってきます。目では見えない細かい模様がくっきり浮かび上がってくると、作業をしていても楽しくなってきます。

大宮調査員

実　測

出土した遺物を図で表す作業を「実測」と言います。この作業では、遺物の輪郭（リンカク）を書くために「マコ」という型取り器や、厚さを測るために「キャリパー」という道具などを使います。縄文土器には縄文を転がしたり、粘土のひもを複雑に貼り付けたりして多くの文様があるので、1つの土器の図を仕上げるのに何日もかかります。

三輪調査員

報告書作成

出土した物の形・大きさ・文様などがくわしく分かるように書いた図や発掘調査で記録した暮らしの跡の図面を清書し、図面の最後の仕上げをします。また、遺跡についてのいろいろな情報を文章や表にします。最後に、これらの図や表や文章のほかに写真や地図などをつかって、遺跡のようすや分かったことを「報告書」という本にまとめます。

三島調査員

土器辞典　縄文土器のうつりかわり

縄文時代　ドキ土器いろいろ

縄文時代は、約12,000年前から弥生時代が始まるまでの約1万年間にもおよびます。この時代に使われた土器を縄文土器といいますが、すべての土器に縄目の模様がついているわけではありません。時期や地方によって変化する文様や形をもとに、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6期に分けています。

早期

上ヶ平遺跡　深鉢

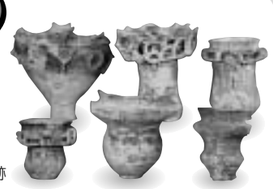
ほとんどが深い形（深鉢）で、底が丸いものや尖ったものが多く、地面にさして石で支えて置いたりしました。ほとんどが煮炊き用に使われたものです。

前期

小の原遺跡　有孔浅鉢　　上原遺跡　深鉢

深鉢は胴の部分がくびれたり、口の部分が内側に曲げたものがでてきます。また、盛りつけに使う浅い形（浅鉢）が作られるようになります。

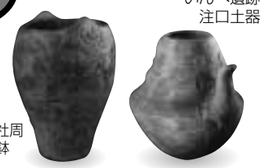
中期



戸入村平遺跡

形や文様がさまざまで、地方によって特色が強くなります。立体的で豪華な飾りや「釣手土器」・「台付き鉢」など変化に富んだ形が増えます。炉に埋められたり、墓に使われたりもします。

後期



いんべ遺跡
注口土器

勝更白山神社周辺遺跡　深鉢

さまざまな文様で飾られた土器の他に、文様がほとんどつかない深鉢が増えてきます。また、注ぎ口がついた土器（注口土器）が現れます。

晩期

いんべ遺跡

深鉢の文様は非常に簡単なものになり、浅鉢は磨かれ光沢を持ちます。しかし、東日本では多くの土器に文様がつけられ続けました。

特集2

発掘現場最新レポート

part 2

平成14年度もあとわずかです。
前号に引き続き、発掘現場の最新情報Part2をお届けします。
美濃地方の４遺跡、飛騨地方の１遺跡を紹介します。

石棒（せきぼう）が完全な形で見つかる！

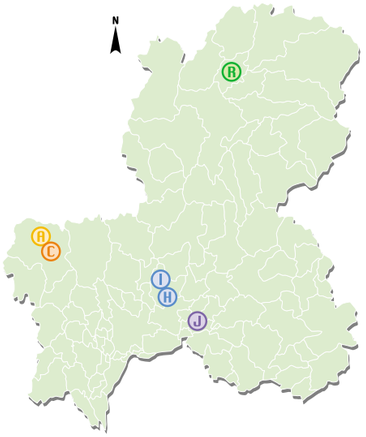
縄文 中世　地図内記号：C

櫨原村平遺跡（藤橋村）

この遺跡は、旧徳山村の櫨原（はぜはら）集落があった場所にあります。川沿いにある小さな平地（河岸段丘）の上に広がっています。今回の調査では、縄文時代の土器や石器が大量に出土しました。なかでも、石棒（せきぼう）のひとつは、発見されたときにみんながびっくりしたほどの一品です。まつりごとに用いた道具と言われていますが、一か所も欠けることなく完全な形で残っています。また、２棟の建物跡やたくさんの擂鉢（すりばち）・甕（かめ）なども見つかりました。江戸時代やそれ以前に、山間部で営まれたくらしを知るうえで貴重な手がかりになると思われます。

石棒

建物跡



縄文時代の早期から前期の遺構が見つかる！

縄文　地図内記号：A

塚奥山（つかおくやま）遺跡（藤橋村）

異形石器

この遺跡は、揖斐川上流の福井県に近い河岸段丘上にあります。今年度の調査は、５年目で最後の調査になります。

今回の調査では、約9,000年前から約5,000年前に使われていた土器のかけらや石器が数多く見つかりました。中でもめずらしい異形石器が３点（写真）出土しました。他には、２軒の竪穴住居跡、700をこえる穴、屋外の炉の跡である焼礫集積遺構（しょうれきしゅうせきいこう）２基が見つかりました。これらのことから、この地が縄文時代の早い時期から生活の場となっていたことがわかります。

調査区全景

江戸時代の土地区画跡が見つかる

縄文 弥生 中世　地図内記号：H

一本杉（いっぽんすぎ）・茶屋下（ちゃやした）・改田（かいでん）遺跡（美濃市）

この遺跡は長良川西岸、標高63mの緩やかな沖積面上に位置しています。今回の調査では江戸時代の畑と水田の境目になる土地区画の石列と、低湿地の水田開発跡が見つかりました。地形の高いところを畑にして、低いところに土を入れて水田にしています。水田になる前は粘土を採掘していたことも分かりました。出土している物の多くは室町時代の物ですが、この時期の屋敷跡は調査区の北側に広がるようです。

水田の様子

宗教的シンボルの山の頂上を調査

縄文 弥生 中世　地図内記号：I

栗坪（くりつぼ）遺跡（美濃市）

見つかった石

この遺跡は真木倉（まきくら）神社近くの板取川筋の盆地にあり、山間部としては密集して遺跡が多い所です。調査した山は昔から「へんべ（へび）山」と呼ばれ人が寄りつかない大切な場所でした。山頂には幅40cm、厚み20cmの石が15個見つかりました。そのうちの２つは平らな面の高さがそろっており、建物の礎石のようです。石の周辺からは角釘と室町時代の茶碗、江戸時代の香炉（こうろ）・灯明皿（とうみょうざら）などが出ています。山頂で「まつり」が行われていたようです。

屋敷の区画の堀（片薬研堀（かたやげんぼり））が見つかる

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世　地図内記号：J

深渡（ふかど）Ａ地点遺跡（美濃加茂市）

深渡Ａ地点遺跡は飛騨川によって形成された河岸段丘上にあり、周りは畑が広がっています。すぐ北側に中屋敷という字名があり、室町時代頃の屋敷跡があると考えられます。その屋敷に関連する区画のための、片薬研堀と呼ばれる片方が切り立った堀が見つかりました。堀の中からは山茶碗や中世陶器が多数見つかりました。縄文時代の遺構は見つかりませんでしたが、縄文時代の土掘り具である打製石斧が多数見つかりました。縄文時代は、根菜類の採集地だったと考えられます。

発掘作業の様子

片薬研堀

古墳時代後期の大型方墳を確認

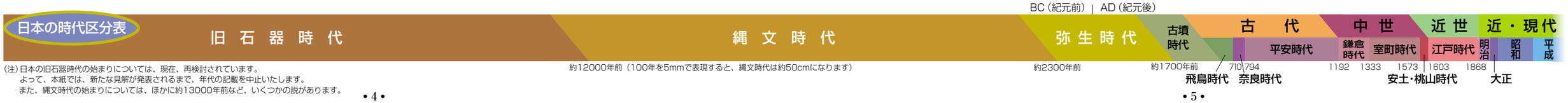
地図内記号：R　縄文 弥生 古代

大洞平（おおほらだい）5号古墳（古川町）

今回の調査で、大洞平５号古墳が一辺約20mの方墳であることを確認しました。方墳とは、「上から見た形が四角形の古墳」です。現存する墳丘の高さは西側で約2.8mになります。また、古墳の周りには幅５～６mほどの周溝（しゅうこう）と呼ばれる溝が見つかり、これも古墳の墳丘にあわせて四角形に巡ることが分かりました。古墳墳丘や周溝からは須恵器（すえき）の甕や提瓶（ていへい）、高坏（たかつき）などが出土しました。これらの出土した須恵器から、古墳が造られた年代は６世紀後半～７世紀初め頃と考えられます。

発掘調査の様子

須恵器



（注）日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。
よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。
また、縄文時代の始まりについては、ほかに約13000年前など、いくつかの説があります。

Center topics 1

盛況のうちに閉幕

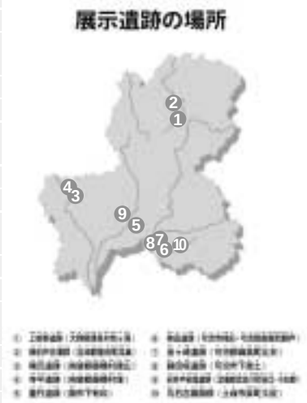
発掘速報展～いにしえの美濃と飛騨～

見学の様子

「発掘速報展～いにしえの美濃と飛騨～」が、さる11月16日から12月15日まで岐阜県博物館において開催されました。毎年恒例のセンター行事ですが、年々盛況となり昨年度を上回る約5,300名の方々に見学していただきました。今年度は平成12・13年度に発掘調査を行った遺跡のうち、飛騨から２遺跡、美濃から８遺跡を紹介しました。展示した遺物は350点ほどでした。

会期中、たくさんの小中学校が学習の一環として見学しました。特に、小学校６年生は歴史の学習に取り組んでいることもあり、係の展示説明を聞きながら、熱心にメモをとり、展示ケースに顔をつけんばかりの勢いで覗き込んでいました。

12月１日（日）には、奈良女子大学教授の広瀬和雄先生による記念講演会を開催しました。「古代の開発～人と自然の格闘の歴史～」と題して、日本の古代社会において前５～４世紀の「稲作システム」伝来と７世紀の国家主導型の洪積台地開発（水田化）が２大飛躍期であったことを、センターが調査を行った柿田遺跡（可児市）の例などを引きながら、わかりやすくユーモアを交えて話していただきました。



係の説明を聞く参加者

こんな遺物が展示されました。

上岩野遺跡（大野郡清見村）
出土の縄文土器（有孔鍔付土器）
●竪穴住居の炉跡から出土しました。神秘的で巧みな作りです。

重竹遺跡（関市下有知）
出土の砥石など
●鎌倉時代の刀鍛冶に使用したものと思われます。関市の刀鍛冶の源流を示すものかもしれません。

金ヶ崎遺跡（可児郡御嵩町）
出土の銅鏃と玉類
●弥生時代末期の「方形周溝墓」から出土しました。銅鏃の一つには小さな孔があけられているため「多孔銅鏃」と呼ばれます。

アンケートから

- 柿田遺跡出土の門受けのある扉をはじめ、建築の部材を興味深く拝見しました。（71才・男性）
- ぜひ、毎年速報展をお願いします。（26才・男性）
- すごいものがいっぱいあったからおもしろかったよ。（8才・男性）
- 上岩野遺跡は子どもと現地見学会に行きましたが、実際に発掘された出土品を見て感激しました。（45才・男性）
- 飛騨の縄文土器が、北陸・西日本・信州のいずれからも影響されていることが、一目でわかる展示でした。（44才・男性）
- 講演会もすごくよかったです。（57才・女性）
- 土器を組み立てるのがパズルみたいで楽しかった。ワクワクした。（20才・女性）
- 模様が描いてあり、器も大変薄いもので感心します。（61才・男性）

REPORT 1

発掘現場の様子を公開！

～各発掘現場で説明会が開かれる～

深度A地点遺跡現地説明会の様子

平成14年度、センターでは６現場で現地公開・説明会を実施し、500名以上の参加者がありました。

右の写真は、美濃加茂市の深渡Ａ地点遺跡（10月26日）の現地説明会の様子です。あいにくの小雨模様でしたが、県内外から130名ほどの参加者が集まり、屋敷の区画溝として利用していたと思われる溝や約50点の打製石斧などを見学し、昔の人々の生活の一端に思いをめぐらせていました。

下の写真は、古川町の中野大洞平遺跡他（11月９日）での現地説明会の様子です。雪が降る中、幅６ｍほどの古墳の周溝などを熱心に見学していました。

両遺跡の紹介は５ページにあります。なお、現地説明会の資料内容についてはセンターホームページをご覧ください。

中野大洞平遺跡他現地説明会の様子

来年度も同様に現地説明会を行う予定です。

REPORT 2

大切な文化財を守る！

～センターあげて防災訓練を実施～

1949（昭和24）年１月26日の法隆寺金堂壁画焼失をきっかけに制定された「文化財防火デー」にちなんで、今年度も１月21日に消防訓練を行いました。岐阜北消防署の方々の指導のもと、職員約90人が参加して、通報訓練や消火訓練などのいろいろな訓練を行いました。

当センターには、これまでに県内で発掘された土器、木器、勾玉など貴重な文化財が多数保管してあります。職員一人一人が、その貴重な財産を預かっているという自覚を持つ大切な機会になっています。

作業員さんによる消火訓練

センター日誌 だより

10月
- 3 国立歴史民俗博物館 村木二郎氏来所
- 4 南山大学教授 伊藤秋男氏 土岐口西山古窯跡群（土岐市）来訪
- 10 各務原市立中央中生徒５名 発掘体験 上恵土城跡・浦畑遺跡（～11日御嵩町）
- 11 名古屋外国語大学講師 斉藤基生氏 岩井戸岩陰遺跡指導
  愛知県師勝町 社会文化講座 上恵土城跡・浦畑遺跡見学
- 12 現地説明会 野内遺跡（高山市120名参加）
- 17 岐阜県教育委員会 前教育長 日比治男氏来所
- 22 愛知学院大学教授 白石浩之氏 岩井戸岩陰遺跡指導
- 26 現地説明会 深渡Ａ地点遺跡（美濃加茂市131名参加）
- 30 走る県政バス 本部施設見学（35名参加）
  長野県埋蔵文化財センター 寺内隆夫氏 飛騨出張所来所

11月
- 6 愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁氏、武部真木氏 飛騨出張所来所
- 9 現地説明会 中野大洞平遺跡他（古川町62名参加）
- 11 奈良大学教授 泉拓良氏 塚奥山遺跡・櫨原村平遺跡（藤橋村）指導
- 16 発掘速報展「いにしえの美濃と飛騨」開幕（～12/15 岐阜県博物館）
  現地公開 西ヶ洞廃寺跡（古川町）
- 18 各務原市立各務小学校６年生 船山北古墳群（各務原市）現地授業 講師派遣
- 19 基礎講座（～20日 上恵土城跡・浦畑遺跡、本部整理所見学）
- 22 茨城県教育財団 鴨志田祐一氏来所
- 25 各務原市教育委員会 渡辺博人氏 柿田遺跡指導
  飛騨子ども相談センター所長 下畑五夫氏 大洞平遺跡他（古川町）指導
- 29 南山大学教授 伊藤秋男氏 大洞平５号古墳（古川町）来訪

12月
- 1 発掘速報展 記念講演会（奈良女子大学大学院教授 広瀬和雄氏 岐阜県博物館108名参加）
- 3 国際日本文化研究センター教授 宇野隆夫氏 浦畑遺跡（御嵩町）他指導
- 13 仙台市教育委員会 斉野裕彦氏 飛騨出張所来所
- 15 飛騨考古学会 町川克巳氏他８名 飛騨出張所来所
- 26 岐阜県教育委員会 教育長 髙橋新蔵氏来所

1月
- 21 防災訓練（本部）
- 29 防災訓練（飛騨出張所）

2月
- 7 県立関高等学校 1・2年生 教養講座 講師派遣
- 8 浦畑遺跡現地説明会（御嵩町 120名参加）

あとがき

テレビの特集番組で、唐招提寺金堂の解体修理について現況と成果を知ることができました。埋蔵文化財の発掘調査とはまた違った建造物の調査・研究という面から、興味深く見ることができました。創建時より現在の方が屋根が高くなっていることが、部材の検証で確認されました。明治の改修で新しくした部材の一部に松が使用してあり、100年ほどでひびや歪みがひどいのに比べ、創建時のヒノキの部材は良質で、予想以上に多く再利用されている事実にもびっくりしました。解体とともに進められている緻密な調査の様子は、国宝の重みを伝えるに十分でした。

番組を見ながら、ふと足下に思いをはせました。緊急発掘調査は、開発事業者の理解・協力を得ての調査である以上、様々な制約の中で実施せざるを得ません。特に限られた期限の中でどこまで調査できるか、文化財を取り巻く厳しい環境下での課題がいつも頭をよぎります。

36号 きずな 平成15年3月1日発行 文化財保護センターだより

県博物館常設展～続編～
ユニークな名前がいっぱい

昨年10月から岐阜県博物館で、飛騨地方（「岩垣内遺跡」「西田遺跡」ともに大野郡丹生川村）で出土した縄文時代の土偶を展示しています。土偶の表情や姿を見てニックネームをつけていただく企画がありました。大変ユニークで思わず吹き出してしまうような名前が多数寄せられていました。土偶は女性を表し、豊かな恵みを祈る祭祀の場で使われたといわれます。おしゃれで個性あふれる縄文人（土偶たち）も、まさかこのような名前が付けられるとは思ってもみなかったでしょうね。

巻頭グラビア関連の遺物紹介
野内遺跡で見つかった羽口

表紙でも紹介している高山市上切町の野内遺跡では、焼けた石や平安時代の焼き物に混ざって直径6㎝ほどの土で作られた筒が出てきました。まわりからは鉄を加工する時に出る鉄のカス（鉄滓）も見つかっています。筒の表面にも溶けて固まった鉄のカスが付着しています。

鉄を加工するには、長い時間、強い火力で高い温度に熱する必要があるため、鞴と呼ばれる風を送る道具が使われました。写真の筒は鞴の先の口にあたる部分で、羽口と呼ばれています。この発見から、野内遺跡では平安時代に鍛冶作業が行われたことがわかりました。

鍛冶（潮見浩『図解技術の考古学』より）

センターのホームページが
リニューアルします！

当センターのホームページが3月中旬、リニューアルします。遺物紹介、遺跡紹介のページが充実するほか、センター広報誌「きずな」のページを開設することになりました。遺物紹介では平成11年度発掘遺跡の出土遺物、遺跡紹介では平成12年度発掘の遺跡について詳しく紹介するほか、広報誌「きずな」（34号以降）をPDF配信する予定です。

トップページもイメージを変え、より新しく、より分かりやすい情報を発信するべく、ただいま準備中です。ご期待ください！

（左の写真はイメージ）

上の写真のようなPDFのダウンロードページができるよう計画中です。